

# 月あかりの下で

ある定時制高校の記憶



映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

第2回人権問題講演会(入場無料:定員100名\*申し込みは不要です)

日時 9月7日(土)13:30~16:30

場所 コムズ 5階 大会議室

映画:「月あかりの下で」2010年ドキュメント作品

平成22年度文化庁映画賞<文化記録映画優秀賞>

2010年度日本映画ペンクラブ<文化映画部門 第1位>

2010年 第84回キネマ旬報ベスト・テン<文化映画 第2位>

講演

「定時制高校の今」

元・埼玉県立浦和商业高校教諭

平野和弘さん

【夜間定時制高校】

そこはいま働く若者たちの学びの場、そして小・中学校で不登校、高校を中退した若者たちの再出発の場となっています。

映画の舞台は、1学年1クラス、全校生徒120人足らずの埼玉県立浦和商业高校定時制のあるクラス。派手なメイクで身を固め教師に暴言を吐く生徒、家庭内暴力が原因で登校できなくなった生徒、明るい笑顔が魅力のある生徒は自傷行為を繰り返し…。彼らのやわらかな心は、家庭や社会の歪みに傷ついていました。そんな若者たちが、大家族のような〈学校=居場所〉の中で悩み、ぶつかり、支えあい過ごした日々と、その先に見えた希望。

2002年の入学から2006年の卒業までの4年間、そしてその後へと、生徒一人ひとりに寄り添った貴重な映像がテレビ放映を経て、ここにドキュメンタリー映画として誕生しました。

「愛媛県における定時制高校の今」

愛媛新聞記者

藤田恵さん

【県内・定時制高校の今】

勤労生徒の学習の場として長年の役割を担ってきた定時制高校。県内ではこの約40年間で学校数は半減、3月には北宇和高校・日吉分校が閉校となり10校に、1学年の定員も計440人と約4分の1にまで減った。

時代の流れとともに環境が激変する中、それでも居場所や同世代の友だち、自分の「将来」を求めて定時制に入学してくる生徒たちがいる。定時制の今を知りたくて、松山南高の夜の教室で生徒たちと一緒に机を並べた。

「ボクらの居場所」~県内・定時制高校の今~ 愛媛新聞2012/3/26より

後援:松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会  
愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM愛媛・あいテレビ  
愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・リビングまつやま

Do

主催:NPO法人「Do」  
(松山市委託事業)